

こども環境学会 2014 年大会（京都）報告

【大会総括】

このたびの大会では、全国から多くの方に参加して頂きまして大変ありがとうございました。おかげさまで無事終了することができました。参加者はじめ、ご協力頂きました、各団体、スタッフ、ボランティアの皆様など関係者に御礼申し上げます。また、京都市および京都市教育委員会の共催により盛大に開催できましたことに御礼申し上げます。

今回の大会テーマは、こども環境に関する歴史・伝統をどのように継承し、またそれらをどのように未来へつなげていくのかというものです。昔の日本では、こどもはどのような所で育ち、学び、遊んでいたのか。そこに地域の人たちはどのように関わってきたのか。こども環境改善のヒントをそうした歴史・伝統の中に求めてみようと考えたのです。

国際シンポジウムでは、正高信男先生とジョナ・サルズ先生に講演して頂きました。一見、対局にある内容のようでありながら結局はつながっていて面白かったと好評でした。京都にはサルズ先生のように日本の伝統文化を愛する外国人がいるということも知って頂けたのではないのでしょうか。特別シンポジウムでは、京都市の取り組み「子どもを共に育む京都市民憲章」を始め、各自治体での子育てに関する取り組みを紹介して頂きました。ワークショップやこどもイベントの「はねず踊り」においては、京都市民の参加も多くありました。また、ポスターセッションでは60をこえる応募があり、これに京都市の「子どもを共に育む京都市民憲章」に関するポスター展示が加わり、会場一杯にポスターが並ぶという大盛況でした。分科会には、京町家の暮らしや地蔵盆など京都ならではの話題提供もあり、京都らしさを実感できたのではないのでしょうか。

私自身、京都に住んで15年になりますが、京都の子育て環境の特徴は、地域力、地域で子どもたちを見守る力にあるのではないかと感じます。そして、京都といえば伝統的な街並・建築があり、その部分に目がいつてしま

うかもしれません。しかし、そこで行われて来た様々な「こと」、そこに関わってきた「こどもたち」も忘れてはいけません。ハード（もの）とソフト（こと）が連動しながら、昔ながらのものを継承しつつ、その延長として新しい創造もあります。それが未来につながっていくのだと思います。

こうしたことは、京都のような古都ではなくとも通じることだと思います。今の積み重ねが数十年後の歴史・伝統となっていくでしょう。そうした継承していくべきものを、身近な地域の中に求めていくことも重要ではないかと思います。そして、様々な日本のこども文化を継承しつつ、また新しくとりいれるもの・文化についても、それらを風土・環境・地域にあわせていかに融合し創造していくのか試行錯誤しながら、地域それぞれにあった、こどもにやさしい環境につながっていけば幸いです。

大会実行委員長 高木真人(京都工芸繊維大学・准教授)

【大会概要】

大会テーマ：「こどもと歴史・伝統 ～未来につなげて～」

日程：2014年4月25日（金）～4月27日（日）

会場：京都工芸繊維大学 60周年記念館ほか

（京都市左京区松ヶ崎橋上町）

主催：公益社団法人 こども環境学会

共催：京都市、京都市教育委員会

協賛：京都工芸繊維大学

後援：内閣府、国土交通省、文部科学省、厚生労働省、
環境省、日本学術会議、独立行政法人科学技術振興機構

（JST）、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、公益財団

法人日本ユニセフ協会、一般社団法人日本体育学会、一

般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本都市計画学

会、公益社団法人日本造園学会、一般社団法人日本発達

心理学会、一般社団法人日本保育学会、日本子ども社会

学会、人間・環境学会、日本環境教育学会、日本安全教

育学会、日本感性工学会、一般社団法人日本公園緑地協

会、一般財団法人公園財団、公益財団法人都市緑化機構、

社団法人全国建設室内工事業協会、一般社団法人都市計

画コンサルタント協会、一般社団法人日本造園建設業協

会、一般社団法人日本公園施設業協会、公益社団法人日

本小児保健協会、公益社団法人日本建築家協会、IPA 日

本支部、特定非営利活動法人日本子ども NPO センター、

特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター、特

定非営利活動法人日本世代間交流協会、聖徳大学、株式

会社京都新聞、公益財団法人京都新聞社会福祉事業団、

京都市保育園連盟

参加費等

正会員：5,000円（当日参加は5,500円）

会員外：6,000円（当日参加は6,500円）

学生：3,000円（当日参加は3,500円）

京都市民：無料（26日のみ参加の場合）

：1,000円（25～27日参加の場合）

こども（高校生以下）・障がい者：無料

参加者数：350名

（会員141名、会員外32名、学生74名、京都市民・大人

44名・こども19名、招待9名、講師等31名）

懇親会参加者数：115名

【プログラム】

4月25日（金）

エクスカージョン

Aコース「京町家・秦家 西本願寺・飛雲閣 京都国際

マンガミュージアム」

Bコース「同志社大学・同志社女子大学関連近代建築（ク

ラーク館、ジェームズ館等） 京都市学校歴史博物館

4月26日（土）

開会式

国際シンポジウム・基調講演

「こどもたちに何を伝えるのか？どう伝えるのか？」

「新しい日本語入門教育を目指して」

正高信男（京都大学霊長類研究所・教授）

「狂言とその新しい創造による「こども返り」」

ジョナ・サルズ（龍谷大学国際文化学部・教授）

ポスターセッション

ワークショップ

「指で描くパステルアート」

「こども建築教室」

「まちくさ探し」

「自然と遊ぼう！（どんなのつくる？まゆ人形/やってみよ
う 植物遊び/虫！虫！虫！/プレイフルサウンドアート）」

特別シンポジウム

こどもイベント/総会/懇親会

4月27日（日）

ポスターセッション

分科会

「A：遊び・遊具の継承と発展」

西澤美智代（京都市鏡山保育所・副所長）

中川香子（聖和短期大学・教授）

笠間浩幸（同志社女子大学・教授）

「B：こどもと自然 いまむかし」

藤井修（たかつかさ保育園・園長）

新田章伸 (NPO 法人里山倶楽部・副代表理事)

佐藤英文 (鶴見大学短期大学部・准教授)

「C: こどもと伝統的空間の関わり」

秦めぐみ (京都秦家主宰)

ゲルゲイ・ペーター・バルナ (京都工芸繊維大学・大学院生)

本多友常 (摂南大学・教授)

「D: 地域でこどもを育てる」

前田昌弘 (京都大学・助教)

竹村佳子 (元京都市学校歴史博物館業務係長)

朱まり子 (NPO 法人山科醍醐こどものひろば元理事長)

「E: 道と遊び」

重本晋平 (まちくさ博士・アーティスト)

関根康正 (関西学院大学・教授)

今井博之 (いまい小児科クリニック・院長)

学会賞受賞記念講演

東日本大震災支援報告

総括セッション/閉会

〒106-0044 東京都港区東麻布 3-4-7

麻布第1コーポ 601

Tel: 03-6441-0564 / Fax:03-6441-0563

E-mail: info@children-env.org



写真1 国際シンポジウム



写真2 特別シンポジウム

【優秀ポスター賞受賞者】

大人に必要な「子ども力」・「遊び力」 「皿回しワークショップ」付き講演から生まれる新しいナラティブ	早川隆志
GPS 調査からみた「自由度の高い里山保育」 におけるこどもたちの外遊びの実態	高木真人 ほか
子ども環境による都市比較のための指標に 関する研究	東美緒 ほか
スマートフォンを用いた遠隔パソコン文字 通訳システムの評価に関する研究 ～「ろう生徒」に対する高等学校試行実験 にもとづく分析」～	玉田雅己
自閉症スペクトラム障害児が犬あるいは口 ポットに初回遭遇した際の笑顔と社会的行 動の比較 笑顔識別インターフェースによる定量的 解析と行動評定	舟橋厚 ほか
社会的養護のもとで暮らした施設退所児へ のアフターケア制度に関する一考察 アフターケアを実施する施設職員へのア ンケート調査の結果を踏まえて-	鈴木勲
アジア・パシフィック地域における「子ど もにやさしい都市」の広がり	木下勇 ほか



写真3 ワークショップ



写真4 ポスターセッション

【事務局】

こども環境学会事務局